アース製薬株式会社
Safety & Quality

森林管理協議会（Forest Stewardship Council）で認証された森林および管理された森林からの原料を含む「FSC認証紙」を使用しています。

VOC（揮発性有機化合物）成分を含まない100%植物インキで、大気汚染の防止に配慮しています。

印刷時に有害な物質を含む浸し水が不要な「水なし印刷」を採用しています。

2010年7月発行

Earth Chemical Co.,Ltd.

環境報告書2010

アース製薬株式会社
Safety & Quality

企業情報

「ベストクオリティで世界と共生」を社是に

独自の視点と発想で新しい価値を生み出し、世界の人々の暮らしに貢献していきます。

名　　称	アース製薬株式会社
本社所在地	〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目12番地1
設　　立	1925年（大正14年）8月26日
資 本 金	33億33百万円

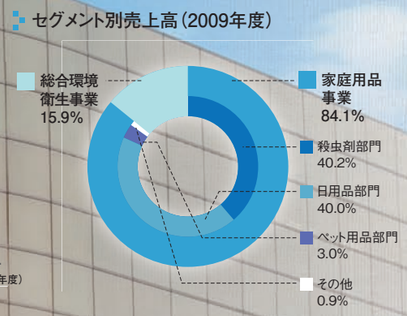


写真:研究所（兵庫県赤穂市）

事業概要

家庭用品事業

◉殺虫剤部門

殺虫剤部門では、家庭用殺虫剤のトップメーカーとして、加熱蒸散殺虫剤「アースレッド」、ゴキブリ捕獲器「ごきぶりホイホイ」、ゴキブリ用エアゾール「ゴキジェットプロ」、液体蚊とり「アースノーマット」、コバエ誘引殺虫ポット「コバエがホイホイ」、ダニ用殺虫剤「ダニアース」やアリ用誘引殺虫剤「アリの巣コロリ」など、数多くの製品を開発し、お客様の支持をいただいています。

◉日用品部門

日用品部門では、洗口液「モンダミン」、入浴剤「バスロマン」、消臭芳香剤「消臭たまご」など、お客様の衛生意識の高まりや生活スタイル、居住環境の変化に即した製品を製造販売しています。また、グラクソ・スミスクライン社の入れ歯洗浄剤「ポリデント」や薬用ハミガキ「アクアフレッシュ」、レキットベンキーザー社の食洗機用洗剤「フィニッシュ」や薬用石鹸「ミューズ」、自動消臭芳香スプレー「エアーウイック」などの販売も行っています。

総合環境衛生事業

総合環境衛生事業では、人々の食をはじめとする製品の安全・安心への意識や、企業側での品質および衛生管理面の対応についての必要性が高まっていることを背景に、工場・店舗の総合的な環境衛生管理や病院における感染防止などの事業活動を行っています。

CONTENTS

01 企業情報
02 事業概要
03 トップメッセージ
05 特集1 「安全」の先にある「安心」のための殺虫製品づくり
07 特集2 エネルギーの「見える化」でCO_2の排出量を削減
09 特集3 蚊による感染症で苦しんでいる世界の人々を救う支援活動 ― ストップモスキートプロジェクト ―
11 環境負荷の全体像
12 環境活動の取り組み目標と実績
13 環境保全への取り組み
17 環境マネジメントシステムの構築
18 2009年度の環境保全活動の総括

●編集方針

本報告書は、アース製薬の環境活動の考え方と2009年度の取り組みをできるだけ分かりやすくお伝えすることを心掛けて作成しています。本報告書を通じて、ステークホルダーの皆様にアース製薬をよりご理解いただきたいと考えています。

●対象範囲

アースグループ（連結対象子会社6社）の中核であるアース製薬株式会社を対象範囲として記載しています。

●対象期間

2009年度（2009年1月1日～12月31日）の取り組みを中心に記載しています。

「ベストクオリティで世界と共生」を実現するため 地球環境への取り組みに終わりはありません

地球環境への対応と経営は一体のものであり、どのような状況下においてもこの姿勢は変わらない

リーマンショックに端を発した金融危機が世界的な経済危機となり、日本の経済にも大きな影響がもたらされました。しかし、世界が直面している課題は経済だけではなく、食糧危機、資源の枯渇、そして、気候変動や生物多様性の問題など、未来のために今やらなければならない地球環境にかかわる課題も山積しています。これらの課題を放置し、さらに深刻化すれば、世界中の人々の暮らしが脅かされることにもなりかねません。

アース製薬は世界で事業を営むものとして、未来永劫に地球環境保全を強く意識し、製品や経営の質(クオリティ)において責任ある事業活動を行う所存です。まさにこれは当社の社是である「ベストクオリティで世界と共生」にほかならないのです。つまり、地球環境への対応と経営は別々にあるのではなく、一体のものであるという基本的な姿勢を貫き、今までも、そしてこれからも事業を行っていくということなのです。従って、どのような状況においてもアース製薬の地球環境への取り組みが揺らぐことはありません。

殺虫剤や日用品を製造・販売する企業として取り組んでいること、これから取り組むべきこと

アース製薬は、殺虫剤をはじめとした製品を製造・販売しており、その事業活動において地球温暖化の原因となるCO_2を排出しています。そのため、工場のみならずオフィス部門なども含めて全社でCO_2排出削減に取り組んでおり、2009年度は2006年度比で15.0%、987トンの削減を達成しました。さらに、2015年までの中期目標数値を新たに設定し、より未来を見据え、より積極的にCO_2排出削減に取り組んでいく考えです。

また、地球温暖化が進むことによる影響の一つに、蚊の生息地域が広がり、蚊を媒介とするマラリアなどの感染症が世界規模で拡大することも考えられます。現在でも熱帯地域を中心として世界でマラリアなどの感染症による推定死者数は年間100万人以上と言われ、今後は日本においても人ごとでは済まされなくなる可能性があり、アース製薬は殺虫剤メーカーとして、こうした問題についてもグローバルに貢献していきたいと考えています。2009年は液体蚊とり「アースノーマット」発売25周年にあたり、これを記念して「ストップモスキートプロジェクト」を実施しました。このプロジェクトを通じ、日本赤十字社が行うマラリアなどの感染症の予防に関する知識の啓発、移動診療による治療の提供など、ケニアの子どもたちを救う地域保健強化事業への支援を行いました。

一方、生物多様性の問題も社会的注目が高まっており、2010年10月には名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれます。日本でも近年、外来害虫による被害なども頻繁に起きつつあり、放っておくと生態系をかく乱する恐れもあります。アース製薬は、この問題に対しても積極的に対応していきます。

社員一人一人の成長を世界の人々の幸せな暮らしの貢献につなげる

これらの課題に取り組むためには、社員一人一人の環境保全に対する意識向上とスキルアップが不可欠と考えています。そこで、全社員を対象とした環境教育に加えて、2008年度より役職別の教育も取り入れ、立場や役割に合わせたよりきめ細かい教育も行っています。また、より機能的な環境保全活動が展開できるよう、全社で環境マネジメントシステムを導入しています。こういった活動を通じて、環境保全の取り組みが自然な形で社内に溶け込み、しっかりと根付くことを切望しています。

アース製薬の地球環境への取り組みは、さまざまな側面で多くの課題があります。これからも社員とともに成長しながら世界の人々の幸せな暮らしに貢献できるよう、挑戦し続けます。

環境宣言

私たちアース製薬は
「ベストクオリティで世界と共生」の
基本理念のもと、
あらゆる事業活動に対し、
自ら積極的に地球環境保全に配慮し、
世界の人々の暮らしに貢献します。

環境基本方針

1. 環境保全に関する法規制・自主基準を遵守する。
2. 環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
3. 省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進する。
5. すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓蒙を行う。
6. 地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
7. 環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

「安全」の先にある「安心」のための殺虫製品づくり

家庭用殺虫剤は、その安全性の確保を最優先に、
製品の研究・開発を日々行っています。
そして、製品として世に送り出すときには、
ラベルの表示や取扱説明書をできるだけ分かりやすくし、
正しく、安心してお使いいただけるように努めています。

確実に安全性を確保するために

お客様に上質で快適な生活空間を生み出す製品を提供するためには、安全性が確実に確保されていなければいけません。当社の製品は家庭向けであり、安全に使用できるよう、一般的な化学製品の安全基準に加え、医薬品と同じレベルの試験を重ね、安全性と効力の両立に努めています。

使用する殺虫成分の安全性に関しては、薬事法に基づき投与直後から3カ月以内に発生する「急性毒性」や「亜急性毒性」、6カ月から1年程度の長期間にわたり、反復投与されることで発現する「慢性毒性」、さらに皮膚や粘膜などに投与された物質によって炎症などが引き起こされる「刺激性」や「アレルギー性」、生殖に対する影響を見る「生殖発生毒性」など、およそ20項目に及ぶ試験を重ね評価されています。また、口から消化管経由で体内に取り込まれた場合の「経口毒性」のほかに、使用時に吸入されるケースまで想定して、呼吸器などを通じて体内に取り込まれた場合の「吸入毒性」についても試験を行っています。

このように殺虫成分には安全性が評価されたものを用い、また製品として安全性も評価した上で、製品化しています。さらに、誤飲、誤食や誤使用などに対しても安全性に配慮した製品設計に努めています。

商品ラベルでの表示や取扱説明書においてできるだけ分かりやすい説明を心がけています。

お客様に安心して
製品を使っていただくために
日々研究・開発に
努めています

アース製薬株式会社　研究部
渡辺 優一

正しく情報を伝え お客様の不安を取り除く

製品自体は人体に影響が少なく安全であることがデータとして検証されていても、「殺虫剤」というイメージから安全性に不安を持つお客様もおられます。

こうした不安を解消するには、お客様の声に真摯に耳を傾け、丁寧にお応えしていくことが大切であると考えています。当社では、お客様相談窓口を設け、電話をはじめ、メール、手紙、FAXなどでご相談やご質問を受け付けています。また、ホームページにおいては製品ごとに設けた「よくあるご質問」はもちろん、「アース害虫駆除なんでも事典」というコンテンツも設け、お客様のご相談に対応する体制を整備しています。

お客様相談窓口に寄せられた問い合わせについては、適切に対応すると同時にデータ化して、その内容を関連部署で共有し、製品の改良や新製品の開発に生かしています。

このように、家庭で使われる製品だからこそ、安全性の確保とともに、お客様の不安も解消し、安心してお使いいただけるように全力で取り組んでいます。

◀お客様相談窓口
http://www.earth-chem.co.jp/customer/index.html

ホームページ上に「お客様相談窓口」、「アース害虫駆除なんでも事典」のコーナーを設け、ご質問・疑問にお答えしています。

▲アース害虫駆除なんでも事典
http://www.earth-chem.co.jp/gaichu/index.html

エネルギーの「見える化」で CO2の排出量を削減

アース製薬から発生するCO2は、製造過程においてその大半を占めています。
そのため、特に工場での省エネルギー活動を強化し、
CO2排出量の削減を図っています。

無駄を徹底的に
洗い出すためには
使用するエネルギーの
「見える化」が不可欠でした

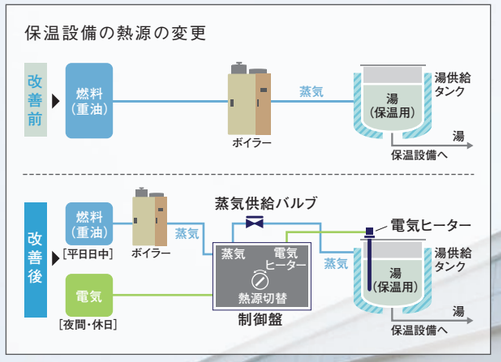
アース製薬株式会社　生産技術部
小野 好正

状況を正確に把握することが重要

アース製薬では、2007年5月に環境保全の取り組みを全社で開始しました。そして、工場での省エネルギー活動を推進するには、まずは現状のエネルギー使用状況を把握すること、すなわち「見える化」を図ることが重要であると考えました。早速、電力記録計を導入し、エネルギーの大半を占める電気の「見える化」を図りました。これによって、数多くの無駄が発見でき、省エネルギーについて自ら改善、改良するきっかけとなりました。

これまでの省エネルギー活動の中で特に効果の大きかった改善策は、赤穂工場における保温設備の熱源を、重油ボイラーで発生させた蒸気に加え、電気ヒーターを併用できる方式に変更したことです。この設備は昼夜を問わず保温し続ける必要があり、工場が稼動していない夜間や休日に、その保温のためだけにボイラーを使用することは無駄ではないかという考えから改善を行いました。その結果、重油は赤穂工場の年間使用量の約75%に当たる約90klを削減でき、年間約240トンのCO2排出量を削減しました。2009年度は、このような取り組みにより、工場全体で2006年度比15.6%、838トンのCO2削減が実現できました。

保温設備の熱源の変更



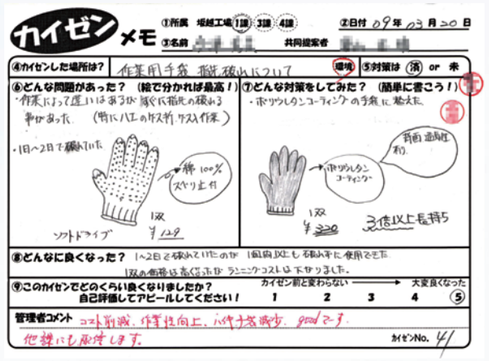
全員参加を合言葉に
現場の無駄を
そぎ落としています

アース製薬株式会社　生産技術部
大道 俊則

工場の一人一人が「カイゼン提案活動」に参加

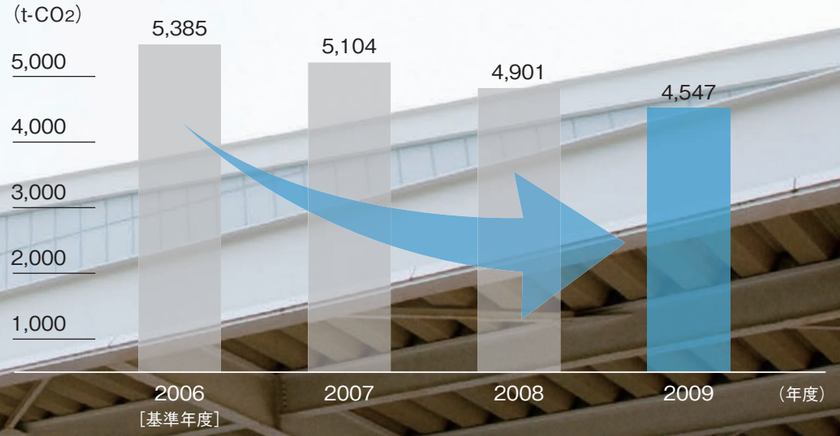
省エネルギー活動は設備の導入、更新だけでは限界があり、生産現場の無駄を自ら発見し、それを取り除くこと、すなわち「カイゼン」が重要です。生産現場の改善活動は長年「カイゼン提案活動」として実施しており、提案の多くは生産効率の向上に関するものでしたが、環境保全の取り組みを開始したことで社員の環境への意識も高まり、エネルギーや廃棄物などの削減をテーマとした提案も数多く出てくるようになりました。赤穂工場の「保温設備の熱源変更」もその一例ですが、「カイゼン提案活動」は環境保全活動においても不可欠なものとなっており、提案の量（件数）と質（効果）をポイントとして換算する仕組みを設け、改善に貢献した社員や部署を年に一度表彰しています。

「カイゼン提案活動」は会社を良くしたいという社員の気持ちを育み、モチベーションを向上させる大変効果的なツールとなっており、CO2削減など環境保全活動の有効な手段となり得ると考えています。



カイゼン提案事例

CO2排出量［工場］



蚊による感染症で苦しんでいる世界の人々を救う支援活動

― ストップモスキートプロジェクト ―

世界ではマラリアやデング熱、黄熱など蚊が媒介となって拡大する感染症でいまだ多くの人々が苦しんでいます。
アース製薬では2009年度、液体蚊とり「アースノーマット」発売25周年を記念したプロジェクト「ストップモスキートプロジェクト」を実施しました。
このプロジェクトでは、「アースノーマット」の売上の一部を寄付し、日本赤十字社のケニアの子どもたちを救う「地域保健強化事業(愛ホップ)」の活動を支援しました。

STOP!
MOSQUITO

「感謝」と「社会への還元」がキーワード

「ありきたりの販売促進的なものではなく、『アースノーマット』というアース製薬を代表する製品にふさわしいものに」。これが今回の「アースノーマット」発売25周年を記念して行われるプロジェクトに与えられた命題でした。

そこで、行き着いたのが、「感謝」と「社会への還元」をキーワードに、蚊を媒介とするマラリアなどの感染症に苦しんでいる世界の人々に貢献するということでした。しかし、当社だけでこのような大きなテーマに取り組むことは困難であり、信頼できるパートナーとして、その国や地域の事情を十分に把握し、グローバルな活動をされている日本赤十字社に協力を求めました。そして、支援方法についても協議を重ねた結果、ただ単に製品を提供するのではなく、「アースノーマット」の売上の一部を日本赤十字社とケニア赤十字社が取り組む地域保健強化事業(愛ホップ)に寄付し、保健医療や教育活動の資金として活用していただくことにしました。

また、プロジェクトは「寄付して終わり」ではなく、活動状況を毎月レポートとして現地から報告していただきホームページで紹介することで、寄付金がどのように使われているかを購入されたお客様に実感していただけるよう工夫しました。

こうしたこともあって、今回のプロジェクトで実施した寄付金を募るキャンペーンは、当社の想定を超える反応がありました。キャンペーン期間を8月末、もしくは寄付総額が1,000万円に達した時点で終了としていましたが、7月上旬には目標金額を達成することができました。

「アースノーマット」というブランドだからこそできる社会への貢献だと感じています

アース製薬株式会社　営業企画部
降矢 良幸

ストップモスキートプロジェクトの実施概要

アース製薬の日本赤十字社へのサポート

対象商品お買い上げ1個につき5円を、日本赤十字社を通じて、マラリアなど蚊が媒介する感染症で苦しむ人々の命を守る活動に寄付します。
250円で、1人の子どものマラリア治療ができます。

※寄付総額は1000万円を上限とさせていただきます。
※キャンペーン期間：2009年4月20日～8月31日までの間のご購入分

アースノーマット® 対象商品1個お買い上げごと
↓
5円
↓
日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 上限1,000万円を活動に寄付

日本赤十字社を通じて、ケニアの地域保健強化事業(愛ホップ)に寄付されます。

店頭用パンフレットを作成
マラリアなどの感染症についても啓発

日本赤十字社 近衛忠煇社長から
当社 代表取締役副社長 山田嘉男に感謝状をいただきました

ケニア・イシオロ県での活動風景

グローバルな社会貢献意識の向上

これまでの社会貢献活動の多くは国内にとどまっていましたが、このプロジェクトをきっかけに、グローバルに貢献したいという意識が社内に芽生えました。

2010年1月のハイチ大地震でも「何か役に立てないか」ということがすぐに社内で持ち上がり、日本赤十字社に問い合わせたところ、「救援チームが使う虫よけ剤があれば」ということで携帯用蚊とり「蚊に効くおそとでノーマット」を寄贈しました。

蚊が媒介するマラリアやデング熱などの被害は、温暖化が進めば日本でも身近な問題となることが危惧され、「蚊に刺されたらかゆい」だけでは済まされない状況に置かれるかもしれません。蚊の本当の脅威と環境保全の重要性を殺虫剤メーカーとしてお客様に啓発していきたいと考えています。

今回のプロジェクトの実施はグローバルな社会貢献意識の向上につながっています

アース製薬株式会社　ホームページ委員会事務局
武知 由記

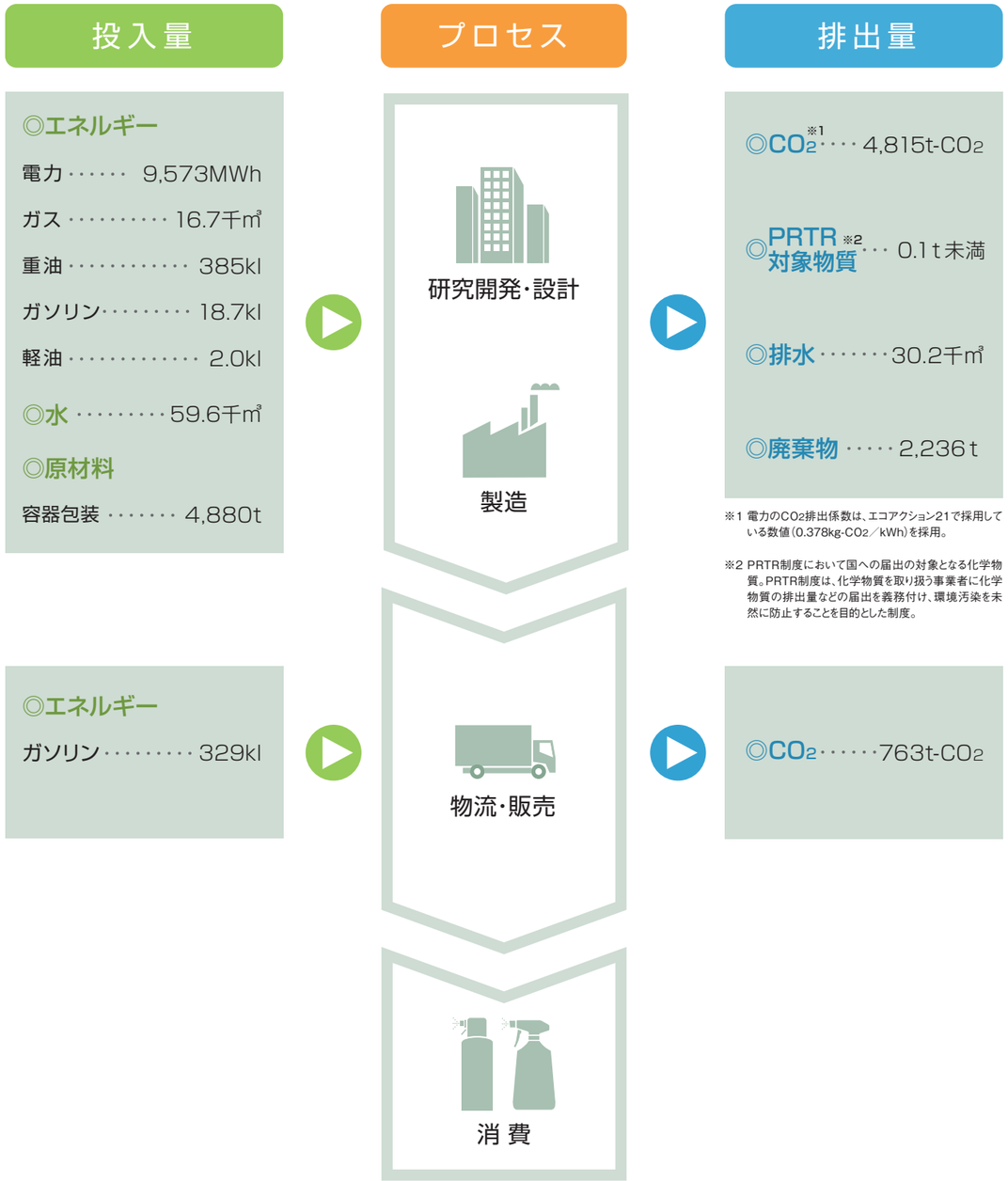
「ストップモスキートプロジェクト」が紺綬褒章を授章

ストップモスキートプロジェクトの活動と功績が国に認められ、2010年2月に紺綬褒章を授章しました。紺綬褒章は、公益のため私財を寄付した者に授与されます。2010年4月2日に日本赤十字社本社において伝達授与式が行われ、日本赤十字社 近衛忠煇社長より、アース製薬に授与されました。

多くの皆様にご支援・ご協力をいただき、このプロジェクトが成功したことに厚く御礼申し上げます。

環境負荷の全体像

アース製薬は、環境負荷の現状を把握し、その低減に努めています。



※1 電力のCO2排出係数は、エコアクション21で採用している数値（0.378kg-CO2／kWh）を採用。

※2 PRTR制度において国への届出の対象となる化学物質。PRTR制度は、化学物質を取り扱う事業者に化学物質の排出量などの届出を義務付け、環境汚染を未然に防止することを目的とした制度。

環境活動の取り組み目標と実績

アース製薬は、環境負荷の低減を図るため取り組み目標を定め、実績を評価し、改善につなげています。
2009年度は目標を達成できなかった取り組みもありましたが、2010年度もより高い目標にチャレンジします。

環境活動の取り組み目標と実績

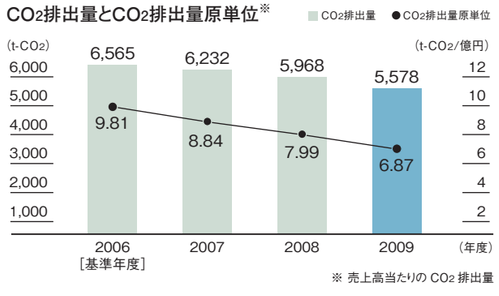
【評価基準】 ○:達成　△:前年度より改善したが未達成　×:未達成

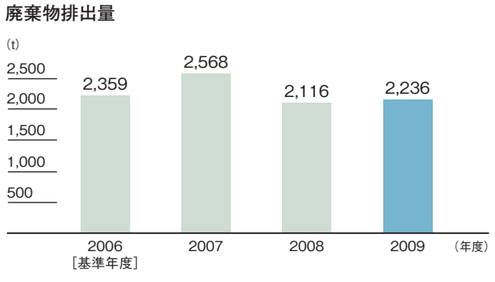
課題	対象組織		2009年度の目標	主な取り組み事項	2009年度の実績	評価	2010年度の目標
▼地球温暖化防止							（対2006年度比）
二酸化炭素排出量の削減	全体		CO2排出量5,899t-CO2（10.1%削減）		CO2排出量5,578t-CO2（15.0%削減）	○	CO2排出量5,496t-CO2（16.3%削減）
	内訳	工場	CO2排出量4,854t-CO2（9.9%削減）	・室温管理の適正化 ・省エネルギー機器の導入 ・カイゼン提案活動の推進 など	CO2排出量4,547t-CO2（15.6%削減）	○	CO2排出量4,486t-CO2（16.7%削減）
		オフィス	CO2排出量1,045t-CO2（11.4%削減）	・室温管理の適正化 ・営業車のエコドライブの推進 ・クールビズ・ウォームビズ運動 など	CO2排出量1,031t-CO2（12.6%削減）	○	CO2排出量1,010t-CO2（14.3%削減）
		物流	—	・物流拠点の見直し ・工場直送率のアップ ・委託先との推進会議開催 など	—	—	CO2排出量原単位※1（2009年度比で1%削減）
▼資源の有効利用							（対2006年度比）
廃棄物排出量の削減	全体		廃棄物排出量2,027t（14.1%削減）		廃棄物排出量2,236t（5.2%削減）	×	廃棄物排出量2,194t（7.0%削減）
	内訳	工場	廃棄物排出量1,935t（14.6%削減）	・リサイクルの推進 ・生産・販売の効率化 ・カイゼン提案活動の推進 など	廃棄物排出量2,136t（5.7%削減）	×	廃棄物排出量2,096t（7.4%削減）
		オフィス	廃棄物排出量92t（2.1%削減）	・リサイクルの推進 ・分別状況の確認・見直し ・コピー用紙使用量の削減 など	廃棄物排出量100t（6.2%増加）	×	廃棄物排出量98t（4.0%増加）
節水	全体		水使用量59,510㎥（40.7%削減）		水使用量59,590㎥（40.7%削減）	△	水使用量57,716㎥（42.5%削減）
	内訳	工場	水使用量57,920㎥（41.4%削減）	・水道メーターの定期検針（漏水チェック） ・給水系統の見直し ・カイゼン提案活動の推進 など	水使用量57,973㎥（41.3%削減）	△	水使用量56,116㎥（43.2%削減）
		オフィス	水使用量1,590㎥（2.1%削減）	・節水運動の展開 ・水道メーターの定期検針（漏水チェック） ・手洗い水栓の流量調整 など	水使用量1,617㎥（0.5%削減）	△	水使用量1,600㎥（1.5%削減）
▼サプライチェーンマネジメント※2							（対2006年度比）※4
グリーン購入※3の促進	全体		グリーン購入比率89.0%（29.0%向上）		グリーン購入比率94.7%（34.7%向上）	○	グリーン購入比率95.5%（35.5%向上）
	内訳	工場	グリーン購入比率83.5%（23.5%向上）	・適合品の把握・切替え ・商品の環境情報収集 など	グリーン購入比率80.4%（20.4%向上）	△	グリーン購入比率84.0%（24.0%向上）
		オフィス	グリーン購入比率90.0%（30.0%向上）	・適合品の把握・切替え ・商品の環境情報収集 など	グリーン購入比率96.2%（36.2%向上）	○	グリーン購入比率96.5%（36.5%向上）

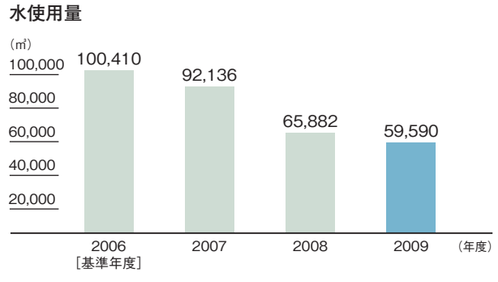
※1 輸送量当たりのCO2排出量

※2 資材調達から消費者に渡るまでの業務の流れを一連の鎖（サプライチェーン）ととらえ、企業の社会的責任としてサプライチェーンまで包含した取り組み管理を行うこと。
※3 環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入すること。グリーン購入比率は事務消耗品購入費に占める割合。
※4 2006年度のグリーン購入比率は推定値（60%）。

環境保全への取り組み







工場・オフィスでの環境配慮

CO_2排出量の削減

2009年度は、取り組み開始前の2006年度比でCO_2排出量を10.1%削減するという目標を掲げて、取り組んだ結果、15.0%の削減となり目標を大きく上回り達成できました。今後も継続して具体的な目標を掲げて、CO_2排出量削減に取り組んでいきます。

保温のための熱源を変更することによりCO_2排出量を大幅に削減

排出するCO_2は工場の比重が非常に高く、それをいかに削減するかが重要であると認識しています。2009年度は工場のCO_2排出量を前年度比で7.2%削減できました。この主な要因は、前述のとおり、赤穂工場の保温設備の熱源を蒸気から、蒸気と電気ヒーターの併用型に変更したことです。これにより年間約240トン-CO_2の削減を実現しました。ほかの工場でもこの事例を生かし、さらなる削減を進めていきます。

工場の照明設備を省エネルギータイプに変更

工場内の主要照明を省エネルギータイプに変更していく5カ年計画を立て、着手しました。2009年度はゴキブリ捕獲器「ごきぶりホイホイ」の製造ラインなどの照明設備を約300灯更新し、年間約8トン-CO_2の削減を実現しました。

物流拠点の見直しによる配送距離の短縮でCO_2排出量を削減

物流時のCO_2排出量を削減するためには、物流協力会社との取り組みが不可欠であり、定期的に合同推進会議を開催しています。2009年度は、関東地区の物流拠点を大量消費地の近隣に移設することにより、配送距離の短縮を図りCO_2削減につなげました。今後はさらにモーダルシフト※の推進なども視野に入れ、物流時のCO_2排出量の削減を図っていきたいと考えています。

※ 環境負荷のより小さい輸送を行うため、輸送手段を換えること

クールビズ、昼休みの一斉消灯などの実施によりオフィスの電気使用量を削減

オフィスにおいてもクールビズ・ウォームビズの実施や昼休みの一斉消灯などに加えて、本社では電力使用状況に応じて空調設備を自動停止させるデマンドコントロール装置※を設置し、省エネルギーに取り組んでいます。この結果、本社における2009年度の電気使用量は2006年度比で11.0%の削減を実現しました。

※ 坂越工場・赤穂工場にも設置済み

デマンドコントロール装置

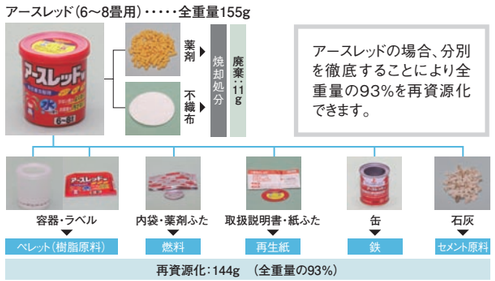
廃棄物排出量の削減

アース製薬は、限りある資源を有効利用するため、廃棄物の抑制と再資源化が重要であると考えています。2009年度は、2006年度比14.1%削減の目標に取り組みましたが、取扱品目の大幅な増加などにより、5.2%削減にとどまり目標達成には至りませんでした。

廃棄処分前の分別を徹底することで資源を有効利用

工場において資源の有効利用を目的に、2007年度から廃棄物を素材ごとに分別する作業を開始しました。これにより2009年度は廃棄物約1,300トンが再資源化されました。今後も継続して廃棄物を見直し、資源の有効利用と廃棄物排出量の削減に努めたいと考えています。

分別事例



需要予測の精度を上げることによりシーズン終了後の製品廃棄量を低減

殺虫剤は、気候によりシーズン需要が大きく変動する製品であり、売れ残りによる返品、廃棄物が発生するリスクを抱えています。そのリスク軽減のため、全社的な需要予測システムを導入し、より的確な生産と販売に努めています。

節水

アース製薬では、今後世界的に水資源がより貴重なものになるという認識のもと、水使用量の削減にも努めています。2009年度は、2006年度比40.7%削減という大きな目標を掲げて取り組んだ結果、目標にはわずかに届きませんでしたが、40.65%の大幅削減を実現しました。今後も設備の見直しや社員への啓発などを行い、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

給水設備を見直し、水使用量を削減

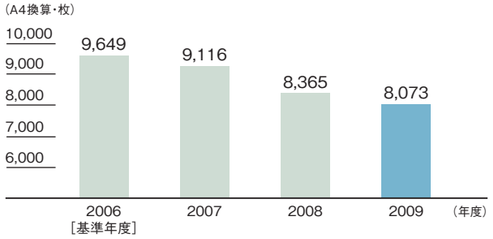
2009年度は、坂越工場の給水設備の見直しを行い、容量が過剰な貯水槽の撤去など、給水系統の簡素化を図りました。これにより、年間約400㎥の水使用量削減を実現すると同時に、給水ポンプの電気使用量削減にもつながりました。

水温の監視により冷却水使用量を適正化

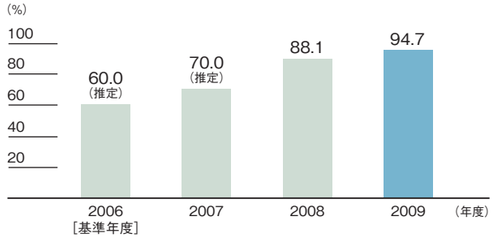
加熱蒸散殺虫剤「アースレッド」の製造ラインでは一定量の冷却水を連続して使用していましたが、2009年度は水量の見直しを行いました。水温を監視し、その温度に応じて水量の調整を図り、その結果、冷却のための水使用量は従来の約75%に当たる年間約2,000㎥削減できました。

温度監視装置

コピー用紙使用量



グリーン購入比率



コピー用紙使用量の削減

アース製薬では、資源の有効活用の一環として、コピー用紙使用量の削減に取り組んでいます。両面印刷対応機への切り替え、資料の簡素化、ペーパーレス化などの推進により、2009年度は2006年度比でコピー用紙使用量を16.3%削減できました。これは取り組みが社員に浸透してきたことによる効果だと考えられますが、今後も啓発活動を継続し、コピー用紙使用量の削減を推進していきます。

グリーン購入の促進

アース製薬では、グリーン購入を推進しています。2009年度は、事務消耗品のグリーン購入比率89%の目標に対し、94.7%の実績となり目標を達成できました。事務消耗品の購入時にグリーン購入に該当しているかどうかの確認とグリーン購入製品への切り替えを推進したことが達成要因と考えていますが、今後は社員への啓発だけでなく、より効率的にグリーン購入を進められるよう購入システムの改善も検討します。

適正な化学物質管理

アース製薬は、さまざまな化学物質を扱っており、少量ですがPRTR対象物質もあります。そのため、社員や工場周辺の住民の安全衛生の確保はもとより、あらゆる生態系にも影響が出ないよう、適正な化学物質管理に努めています。

化学物質の回収装置の設置などによるさらなる排出削減

殺虫成分などの化学物質が含まれる恐れのある洗浄水は回収し、公共用水域への流出防止を図っています。また、生産効率を向上させ、生産ロスを低減することで廃棄処理される化学物質の削減にも努めています。揮発性の化学物質については取扱場所を限定し、飛散対策を行ってきましたが、2009年1月に掛川工場の排気設備に回収装置を設置し、さらなる対策を行いました。

使用する化学物質の徹底管理

研究所で使用する毒物・劇物および殺虫成分などの化学物質はすべて施錠管理を行っています。

試験・分析で使用する薬剤、発生する廃液などはすべて回収し、産業廃棄物として適正処理しています。

より環境負荷の少ない天然成分の製品　左から「アース 天然ハーブの虫よけゲル」「アース 天然ハーブの虫よけジェット」「アース ハーブで消臭防虫スプレー」

製品における環境配慮

環境配慮設計の取り組み

アース製薬は、お客様に提供する製品やサービスを含めた事業活動全般において環境負荷の低減に努めることが重要と認識しており、研究開発部門では「環境配慮型製品開発指針」を策定し、お客様のニーズに合わせた環境配慮型製品の研究開発に取り組んでいます。

製品設計における取り組み事項

- グリーン調達
- 化学物質対策
- 省資源化
- 廃棄対策

オイルフェンス訓練の様子

社会に対する環境配慮

油漏えい事故を想定し、オイルフェンスを張る訓練を定期的に実施

坂越工場は、瀬戸内海に面した場所に立地しています。そのため、油類の取り扱いには細心の注意を払っておりますが、万一の油漏えい事故を想定し、以前から住民の方々の協力のもと、油の拡散を防止するオイルフェンスを海面に張る訓練を定期的に行っています。2009年度は約40名の社員が参加しました。

工場周辺の清掃活動を実施

各工場では、毎月一度清掃活動を行っています。2007年度から継続的に実施し、現在では清掃活動で回収されるごみの量は着実に減少しています。2009年度は延べ約360名の社員が参加し、全社的な環境意識の向上にもつながっています。

ステークホルダーとのコミュニケーションの一環として、工場見学を実施

取引先・地域の方々や社員の家族を対象に工場見学を実施しています。製品づくりの舞台裏を知ることができる工場見学は、当社の活動への理解を深めていただく貴重な機会になっています。2009年度は68回、782名の来訪がありました。

工場見学にて芳香剤の手作り体験をしている
社員の家族

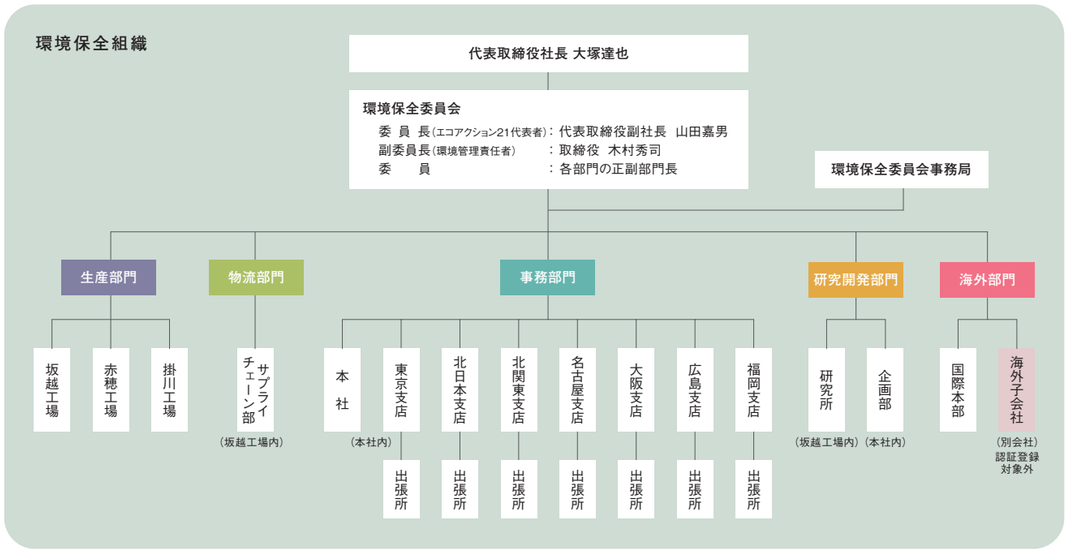
環境マネジメントシステムの構築

環境保全 生産部門会の様子

「エコアクション21」の導入

アース製薬では、2007年5月に環境保全の全社的な取り組みを開始しました。

2008年5月に本社・工場で環境省策定の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の運用を開始し、2009年1月に認証登録を受けました。2009年6月には支店・出張所・国際本部まで運用の拡大を図り、2010年4月に国内全事業所で認証登録を受けました。



環境教育の実施

2007年5月に定めた「環境方針」に沿って社員一人一人が高い意識を持って活動できるよう、全社員を対象に環境教育を行っています。2009年度は、各職場での取り組みをより一層推進するため、管理者を対象とした社内研修も実施しました。今後は部門別の研修制度などを拡充し、より充実した活動につなげていきます。

法令遵守

事業活動を行う上では、対象となる環境関連法規制などが数多くあります。定期的な遵守評価の結果、2009年度も違反はなく、関係当局からの指摘なども過去10年以上ありません。しかし、法令遵守は最低限の義務であり、常にそれ以上の活動を行えるよう、定期的にリスクの把握と対策の検討を行っています。

2009年度の環境保全活動の総括

アース製薬株式会社
代表取締役副社長
山田嘉男

環境保全の取り組み開始以来、継続的にレベルアップを目指して、環境マネジメントシステムの構築にも取り組み、2009年度には「エコアクション21」の運用を全事業所まで拡大させました。

全社的な環境保全活動を通じて、社員一人一人が地道に取り組んできた結果、2009年度は、これまでで最多のCO_2排出量を削減できた反面、製品の販売数量の増加に伴い、廃棄物は増加しました。

事業活動を通じて、製品・サービスを生み出すと同時に、CO_2や廃棄物など負の副産物も生じますが、いかにそれらを減らし、投入した原資をいかに効率よく製品・サービスにつなげていくかが企業発展の重要課題です。これらの課題を経営と一体化させ、環境に配慮した事業活動を行う考えです。

今後に向けて

環境保全活動をさらに強化していくために、2010年4月、2015年に向けた中期目標を策定しました。この計画の中では、化学物質への取り組みや、関連会社への活動の拡大も盛り込み、より充実した活動の展開を目指しています。

環境保全中期目標

	2015年度の目標
環境マネジメントシステム	「エコアクション21」運用の強化
	環境内部監査の実施(1回/年)
	関連会社への取り組み展開
地球温暖化防止・省資源・省エネルギー	工場・オフィス▶CO_2排出量：2006年度比 20%削減
	物流▶CO_2排出量原単位(輸送量ベース)：2009年度比 6%削減
廃棄物対策	廃棄物排出量：2006年度比 11%削減
化学物質	PRTR対象物質排出量：0.1t/年以下に維持
グリーン購入	事務消耗品のグリーン購入比率(金額ベース)：96%以上
社会貢献	事業所周辺清掃の継続と拡大
	支援活動への参加
製品	環境配慮製品の開発推進
	包材資材の減量化
情報開示	環境情報ホームページの充実
	環境報告書などの充実

編集後記

当社が環境保全の取り組みを開始して約3年が経過し、この度初めて、「環境報告書」を発行することができました。

2010年の報告書発行は取り組み開始直後に定めた目標の一つですが、本報告書はそれが達成できた証しであり、これまでの総括として、皆様へその状況をお伝えいたします。

至らぬ部分も数多くありますが、これを契機に、さらなる活動の推進に努めますので、記載内容、取り組み状況などへのご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

アース製薬株式会社 環境保全委員会

お問い合わせ先▶アース製薬株式会社 環境保全委員会事務局 TEL：0791-48-8001 FAX：0791-48-0706

「アース製薬株式会社 環境報告書2010」アンケート

「アース製薬株式会社 環境報告書2010」をご覧いただき、
ありがとうございました。
今後の環境活動や環境報告書の参考とさせていただくため、
皆様の忌憚ないご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

環境保全委員会事務局宛にFAXをお送りください。

アース製薬株式会社　環境保全委員会事務局

FAX：0791-48-0706

アース製薬株式会社　環境保全委員会事務局 宛

FAX：0791-48-0706

Q1 本報告書について、ご感想をお聞かせください。

全体的な評価

☐ 大変評価できる　☐ 評価できる　☐ 普通　☐ あまり評価できない　☐ 評価できない

内容のわかりやすさ

☐ 大変わかりやすい　☐ わかりやすい　☐ 普通　☐ 少しわかりにくい　☐ わかりにくい

内容の充実度

☐ 大変充実している　☐ 充実している　☐ 普通　☐ 少し物足りない　☐ 物足りない

Q アース製薬の環境活動について、ご感想をお聞かせください。

☐ 大変評価できる　☐ 評価できる　☐ 普通　☐ あまり評価できない　☐ 評価できない

Q 本報告書の中で印象に残った項目、興味をお持ちになった項目をお選びください。

（複数回答可）

☐ 企業情報、事業概要
☐ トップメッセージ
☐ 【特集1】「安全」の先にある「安心」のための殺虫製品づくり
☐ 【特集2】エネルギーの「見える化」でCO_2の排出量を削減
☐ 【特集3】蚊による感染症で苦しんでいる世界の人々を救う支援活動
— ストップモスキートプロジェクト —
☐ 環境負荷の全体像
☐ 環境活動の取り組み目標と実績
☐ 環境保全への取り組み
☐ 環境マネジメントシステムの構築
☐ 2009年度の環境保全活動の総括

Q 本報告書について、記載が足りなかった点、改善した方が良い点があればお聞かせください。

Q 本報告書をどのようなお立場でご覧になりましたか？

☐ お客様　☐ 株主・投資家　☐ お取引先　☐ 当社事業所近隣の方
☐ 企業・団体のご担当者（☐ CSR ☐ 環境 ☐ 人事 ☐ 社会貢献 ☐ その他）
☐ 政府・行政機関　☐ 調査・研究機関　☐ 学校・教育機関　☐ 金融機関　☐ 報道機関　☐ NGO/NPO
☐ 学生　☐ アース製薬グループ社員、家族　☐ その他（　　）

お差し支えなければ、以下にもご記入ください。

性別：☐ 男性　☐ 女性
年齢：☐ 10代以下　☐ 20代　☐ 30代　☐ 40代　☐ 50代　☐ 60代　☐ 70代以上

ご協力ありがとうございました。